

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	13-059	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Diets of drinkers on drinking and nondrinking days: NHANES 2003-2008. 飲酒者の飲酒および非飲酒日の食事について: NHANES 2003 から 2008 年		
<b>執筆者</b>		
Breslow RA, Chen CM, Graubard BI, Jacobovits T, Kant AK.		
<b>掲載誌</b>		
Am J Clin Nutr. 2013 May;97(5):1068-75. doi: 10.3945/ajcn.112.050161. Epub 2013 Mar 27.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
食事、飲酒日、アメリカ、健康栄養調査		23535109
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> アルコールは食生活に影響を与えるだろう。しかし、アメリカ人における飲酒した日の食事についてあまり調査されていない。飲酒者において飲酒しなかった日の食事と比較して飲酒した日の食事が違うかについて検討した。</p> <p><b>方法：</b> 2003 から 2008 年の NHANES Mobile Examination Center のインタビューを使用した。一回は飲酒日の、もう一回は非飲酒日の、24 時間の思い出し法による食事記録がある 1,864 名の飲酒者 (男性 1,126 名、女性 738 名) を対象とした。食事記録日および思い出し日を調整した Sex-specific repeated-measures analyses がエネルギー、栄養素、摂取食品群の個人差を比較するために用いられた。解析は代表推定値で重みづけされた。</p> <p><b>結果：</b> 非飲酒日と比較して飲酒日は、男性で非アルコール摂取カロリーが 168 kcal 増えた (<math>P &lt; 0.01</math>)。総たんぱく質 (<math>P &lt; 0.001</math>)、総脂質 (<math>P &lt; 0.01</math>)、飽和脂肪 (<math>P &lt; 0.01</math>)、モノ不飽和脂肪 (<math>P &lt; 0.01</math>)、カリウム (<math>P &lt; 0.001</math>) およびナトリウム (<math>P &lt; 0.05</math>) が増加した。食品群では肉 (<math>P &lt; 0.001</math>)、ジャガイモ (<math>P &lt; 0.05</math>)、discretionary oil あるいは固形脂肪 (<math>P &lt; 0.05</math>) の摂取が増加し、果物類 (<math>P &lt; 0.05</math>) およびミルク (<math>P &lt; 0.05</math>) の摂取が減少した。女性においては非アルコールカロリーは増加しなかったが、総脂質 (<math>P &lt; 0.05</math>)、モノ不飽和脂肪 (<math>P &lt; 0.05</math>)、多価不飽和脂肪 (<math>P &lt; 0.05</math>)、カリウム (<math>P &lt; 0.01</math>) discretionary oil あるいは固形脂肪 (<math>P &lt; 0.05</math>) が増加し、ミルク (<math>P &lt; 0.01</math>) および乳製品 (<math>P &lt; 0.01</math>) が減少した。</p> <p><b>結論：</b> 多くの適量飲酒者の飲酒日の食事は栄養的にはよくなかった。飲酒時の食事との関係は食事の改善する公衆衛生学的な試みの良いターゲットとなるだろう。</p>		